

# 腰椎・大腿骨骨密度測定

## 検査の知っトク

### 腰椎・大腿骨測定 の 重要性

ADL、QOLにより大きな影響を与える腰椎圧迫骨折・大腿骨近位部骨折の骨折リスクを予測するためには、腰椎、大腿骨での測定が最も適しているため腰椎・大腿骨DXA装置での測定が推奨されています。  
投薬効果判定は、大腿骨よりも誤差が少ない腰椎が最も優れています。

## 今までの判定結果と違う？

骨粗鬆症の診断基準は2012年に改訂されました。改訂された主なポイントは以下の2つです。  
**腰椎・大腿骨の測定では、骨粗鬆症のカットオフ値はYAMの-2.5SD、骨量減少のカットオフ値は-1.0SDに変更されました。**（橈骨と中手骨は%表記のみでSDは使用しません。）

**大腿骨近位部骨密度のYAMは20-44歳から20-29歳を基準にすることに变更されました。**

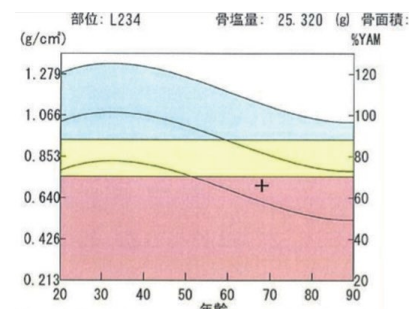
（\*YAMとはYoung Adult Meanの略で、若年成人の平均値を示します。）

まずカットオフ値の変更は国際基準と合わせるため、日本独自の基準であるYAM80%からYAM-1.0SDに変更しました。そのため骨量減少のカットオフ値-1.0SDをYAM値換算すると下表の通り約88%となります。（骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版はYAM%表記）

また、大腿骨のYAMは20歳代以降の減少が大きく、国際基準に合わせることになりました。

これらの変更により、**2012年以前の判定とそれ以降で判定が異なる場合があります。**

部位	YAM 値	YASD	-1.0SD	→YAM%	-2.5SD	→YAM%
L234	1.066	0.126	0.940	88%	0.751	70%
L1234	1.020	0.116	0.904	89%	0.730	72%
Neck	0.961	0.114	0.847	88%	0.676	70%
Total Hip	0.960	0.114	0.846	88%	0.675	70%



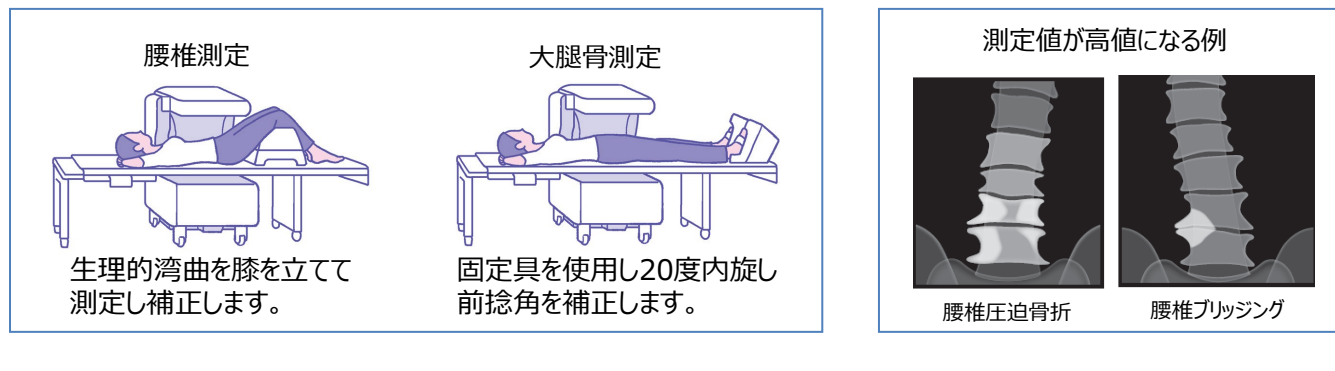
腰椎・大腿骨骨密度測定 臨床Q&A集より抜粋  
その他Q&Aを記載した冊子をご用意しております。

## 測定値がばらついてしまうけど、どうしたらいい？

腰椎はあまりばらつきがありませんが、大腿骨は多少ばらつくことがあります。しかし固定具を使用してしっかりと内旋を保ち、測定位置を毎回同じにすれば、ばらつきを抑えることが可能です。

また、使用開始前に必ずキャリブレーションを行ってください。

また患者さんの状態が前回と変化していないか確認する必要があります。特に腰椎は圧迫骨折や変形性関節症、骨棘、石灰化が起きていないか確認します。これらは骨密度の数値を高めに出してしまいます。



腰椎・大腿骨骨密度測定 臨床Q&A集より抜粋  
その他Q&Aを記載した冊子をご用意しております。

## 骨密度測定装置の消毒について

新型コロナウイルス感染症などの感染症予防のための装置の消毒についてご案内いたします。

装置本体の消毒には、消毒用エタノールを使用してください。（76.9～81.4vol%）

数枚のクロス（柔らかい布で、毛羽の出ないもの）を準備してください。

- ・消毒液をしみこませる用（必須）
- ・ふき取り用（必要な場合）

その他に薬剤から皮膚などを保護する手袋などの保護具を着用して消毒を行ってください。

以下の手順で消毒します

- 1 走査装置の電源を切り、電源コードやAC入出力ケーブルなどの各種接続ケーブル類を取り外します。
- 2 消毒剤を染み込ませたクロスで、補正領域ガードなど被検者に触れた部分を軽く拭きます。  
（参考）効果を発揮するために必要な時間よりも長く、消毒剤を付着させた状態で放置しないでください。装置が劣化し破損の原因になります。  
（参考）コネクタやプラグなどの金属部分は濡らさないでください。感電や発熱・発火の原因になります。
- 3 必要な場合は、水に浸してよく絞ったクロスで軽くふき、消毒剤をふきとります。
- 4 必要な場合は、乾いたクロスで水分をふきとり、十分に乾燥させます。

詳細は納品時お渡しした取扱説明書をご参照ください。